



【講演①】

「現代の短歌について」

講師 歌人

「玲瓏」編集委員

神戸新聞文芸・短歌選者

尾崎 まゆみ 先生

【講演②】

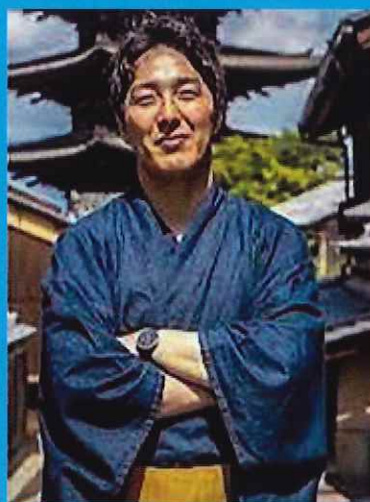
「短歌の作り方、
楽しみ方について」

講師 歌人

「心の花」編集委員

前田純孝賞選者

佐佐木 頼 綱 先生



第一線で活躍される歌人のお二人をお招きし、現代における短歌についてのお話や、短歌を作るうえでのポイントなどを講演していただきます。

日時 令和7年 **7月27日**(日)

13:30~15:30

会場 浜坂多目的集会施設 多目的ホール
(兵庫県美方郡新温泉町浜坂 2673-1 役場庁舎横)

入場無料

主催 新温泉町・新温泉町教育委員会

申込みURL⇒

問合せ 新温泉町教育委員会生涯教育課文化財室(浜坂先人記念館内)

TEL: 0796-82-4490 / E-mail: bunkazai@town.shinonsen.lg.jp



第31回「前田純孝賞」学生短歌コンクール

短歌講演会

歌人 尾崎 まゆみ (おさき まゆみ)

- ・1955年1月17日愛媛県今治市生まれ
- ・1991年、「微熱海域」で第34回短歌研究新人賞受賞。塚本邦雄が創刊した歌誌『玲瓏』の編集委員で選者を務める。
- ・2011年から神戸新聞文芸短歌選者、2015年から伊丹公論「伊丹歌壇」選者。
- ・歌集に『ゴダールの悪夢』など七冊。セレクション歌人『尾崎まゆみ歌集』現代歌人文庫『尾崎まゆみ歌集』。他に『レダ靴を履いて一塚本邦雄の歌と歩く』、『塚本邦雄歌集』編集など。
- ・神戸新聞文化センター、NHK神戸文化センターなどで講師を務める

【講演テーマ】『現代の短歌について』

SNS上で誰もが気軽に情報を発信できる時代、短歌もまた多くの人によって生み出され日夜発表されています。そうした現代の短歌作品についてお話いただきます。

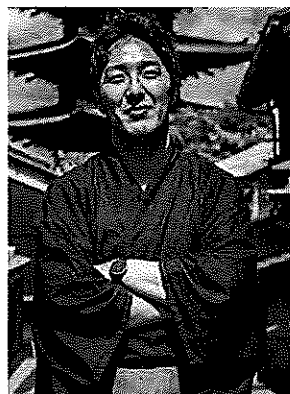


歌人 佐佐木 頼綱 (ささき よりつな)

- ・1979年10月2日東京生まれ
- ・竹柏会「心の花」編集委員・「佐佐木 信綱研究」編集長
- ・日本視覚障害者連盟文芸コンクール 短歌部門選者、前田純孝賞選者
- ・跡見学園女子大学兼任講師
- ・第28回歌壇賞受賞
- ・Eテレ 2019年「NHK 短歌」第2週レギュラー講師
- ・Eテレ 2021年「NHK 短歌」第2週レギュラー講師
- ・NHK ラジオ ラジオ深夜便出演、その他、フジテレビ、文化放送等に出演
- ・小・中・高等学校、アメリカンスクールなどで短歌授業を毎年開催
- ・日本パラリンピアンズ協会にてパラアスリートを対象としたパラ歌会を主宰
- ・講談社コミック『清少納言と申します』などに短歌提供

【講演テーマ】『短歌のつくり方、楽しみ方』

前田純孝の短歌を題材に、作品鑑賞する際に注目すべき箇所や短歌を作るうえで押さえておくポイントなどをお話いただきます。



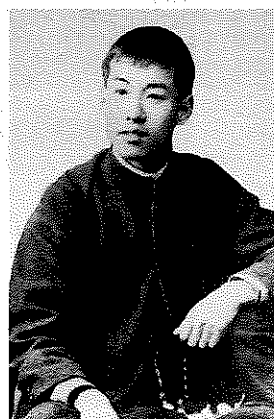
歌人 前田 純孝 (まえだ すみたか)

前田純孝(号・翠溪)は、明治13年(1880)新温泉町諸寄に生まれ、明治35年(1902)兵庫県御影師範学校を卒業後、東京高等師範学校に入学。東京上京後は、与謝野寛(鉄幹)らと「明星」に精力的に作品を発表。また純孝は短歌、詩、童謡の作詞・作曲なども手掛けた。

明治39年(1905)大阪府立島之内高等女学校の初代教頭となった。明治39年の夏休みの帰省途中に春來峠で倒れた。明治40年(1907)秋庭信子(のぶ)と結婚し、翌年長女美津子が生まれた。しかし、信子は産後の健康がすぐれず、純孝は仕事と家事・育児と多忙を極め結核に冒され、諸寄に帰って来た。

郷里での闘病生活は悲惨を極め、薬代にもこと欠き、病床で唱歌や童謡を書いたりして東京の友人葛原滋に送り、金に換えてもらう生活を続けた。病苦、貧困、孤独、絶望といった人生のあらゆる不幸を背負った純孝は、明日なき病の中で生と死を凝視し、人生の哀歌を切々と詠んでいった。そして、明治44年(1911)31歳の短い人生を閉じた。

純孝は、生前二千首にも及ぶ短歌を遺しており、その才能は「東の啄木、西の翠溪」と称されている。



問合せ先：新温泉町教育委員会生涯教育課文化財室

TEL 0796-82-4490 / ✉ bunkazai@town.shinonsen.lg.jp